

高麗博物館企画展「ハンセン病と朝鮮人」

2020年6月24日(水)～12月27日(日)

主な展示内容

- ハンセン病隔離政策の歴史
- 天皇制と隔離政策
- 在日朝鮮人の隔離と差別
- 在日朝鮮人の多かった療養所
多磨全生園／栗生楽泉園
長島愛生園／菊池恵楓園
- 光田健輔と小笠原登
- 日本植民地下の
ソコト 小鹿島療養所(韓国)
- 在日朝鮮人患者の闘い
- ハンセン病と文学
- 「生きぬいた証に」
(山田昭次立教大名誉教授の
多磨全生園における在日患者聞き取り)
- 人権回復のための裁判闘争
- ハンセン病問題のこれからそして私たち

※今回の展示では国立ハンセン病資料館に
多大なる協力をいただきました。

記念
講演会の
予定

会場&
オンライン

9月12日(土)14:00～16:00

「在日朝鮮人ハンセン病回復者の闘い
—戦後を中心に—」

キン キ ブン
金貴粉(国立ハンセン病資料館学芸員)

北海道函館市生まれ。大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員研究員、津田塾大学非常勤講師。在日朝鮮人ハンセン病回復者の歴史、朝鮮書芸史を主な研究テーマとして活動している。近著に『在日朝鮮人とハンセン病』がある。

10月17日(土)14:00～16:00

「長い在日暮らしをハンセン病療養所で生きて
—栗生楽泉園で出会った在日コリアンたち—」

福岡安則(埼玉大学名誉教授)

1947年、静岡県生まれ。東京大学大学院修了。社会学者として、部落差別問題、在日コリアン問題、ハンセン病問題などを研究。著書に『在日韓国・朝鮮人—若い世代のアイデンティティ』(中公新書)など。日本解放社会学会会長を務めた。

会場：高麗博物館展示室

参加費：1,000円(入館料を含む)

ご予約下さい

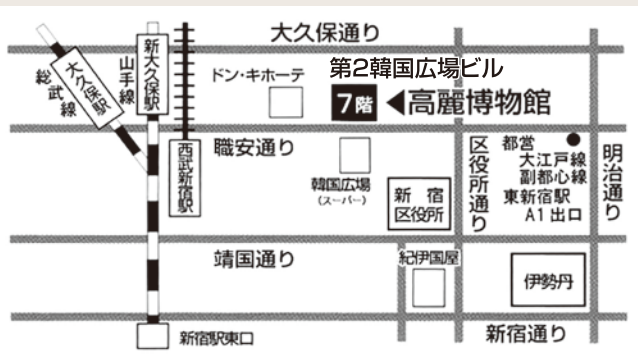
(予約の方優先です。ご予約は、ホームページ、Email、Tel、Fax等からお願いします)

9月12日、10月17日ともオンラインでの講演会を同時に開催します。詳細はホームページを御覧になるか、高麗博物館まで直接お問い合わせください。

★新型コロナウイルスの感染予防対策として
本企画展の観覧は、事前予約制となります。
電話及びメールにて予約をお願いします。

(当分の間、団体の観覧は受け付け致しません)

★新型コロナウイルス感染第2波が到来した場合は、
会期中であっても閉館になる場合があります。
その際は当館ホームページにてお知らせします。



*ビル1階はファミリーマートです

ご来館前にホームページで
最新情報をご確認ください!

◆在日連続講座◆

11月14日(土)14:00～16:00

「勝訴、でも家族の苦しみは…」

ファン グァン ナム

黄光男 ハンセン病家族訴訟原告団副団長

会場：高麗博物館展示室 参加費：1,000円(要予約)

*この在日連続講座もオンラインでの参加ができます
詳細は高麗博物館までお問い合わせください

市民がつくる日本・コリア交流の歴史博物館



高麗博物館
고려박물관 KOREA MUSEUM